

故佐々木峻

目次

卷頭言

故佐々木峻氏を偲んで……………小林 芳規……………(一)

故佐々木峻氏年譜・研究業績目録……………(七)

故佐々木峻氏遺稿……………(一五)

藤原為房妻の消息の用語——平安時代の連体形終止を中心に……………小林 芳規……………一

踊り字の沿革について——「々」を中心に……………東辻 保和……………一九

東京方言における動詞・形容詞の活用形のアクセント……………柳田 征司……………二九

疑問助詞ヤ・カの消長について……………来田 隆……………三九

日本書紀における助数詞について……………三保 忠夫……………四九

延慶本平家物語の地の文の展開——接続詞の用法に注目して……………菅原 範夫……………一〇八

冷泉家時雨亭文庫蔵『古来風躰抄』における和語表記の漢字……………村田 正英……………一三三

——藤原定家自筆平仮名文との比較——

和化漢文における時の形式名詞について……………鈴木 恵……………一六六

『今昔物語集』における「ムトス」「ムト為」「ムガ為」……………田中 雅和……………一三六

——「為」との関係から——

「堅固」「至極」の出自と性格……………原 卓志……………三五〇

大谷大学蔵三教指帰注集に引用された漢籍の訓法について……………山本 秀人……………二七三

——史記を例に——

十一〜十三世紀における法相宗の漢音……………佐々木 勇……………二九七

金沢文庫蔵二十二巻本『表白集』所収表白文の文体について……………山本 真吾……………三三六

漢語の意味変化について——「濫吹」を中心に——……………栞 竹民……………三四四

『今昔物語集』における動詞句「喜ヲ成ス」の性格について……………青木 毅……………三七〇

——漢文訓読語と和文語との間——

前田本『色葉字類抄』と黒川本『色葉字類抄』の漢字字体の差異……………藤田 夏紀……………三九三

について——伊部の漢字——

藤原俊成自筆『古来風躰抄』(上)にみられる仮名の字体について……………豊田 尚子……………四〇七

——万葉集抄出歌の表記に注目して——……………岡野 幸夫……………四一九

平安・鎌倉時代における「動詞十テ十キル(居)」の意味について……………岡野 幸夫……………四一九

小叢林略清規 分韻表……………沼本 克明……………四三七

唐招提寺蔵四分律行事鈔卷下之三院政期点解説並びに影印……………松本 光隆……………四八〇

天理大学附属 天理図書館蔵『日本往生極楽記』訓点語彙索引……………宇都宮啓吾……………五五五

故佐々木峻氏を偲んで

小林 芳 規

佐々木峻君、(敢えて君と呼ぶことを許して頂きたい) 君はどうしてそんなに急いで逝ってしまったのか。教授としてこれから学生の教育や大学の運営に重責を果されようという時、学者としてこれまで重ねて来た研鑽を踏まえてその成果を大きく纏めなければならない秋に、どうして先に逝ってしまったのか。

思えば、私が君を識つたのは、招かれて広島大学文学部に着任した昭和四十年であるから、もう三十年も前になる。その年の秋、国語学会の全国大会が広島大学で開催され、担当校の責任を一手に負うことになり、初めての広島の地で右も左も分らなかつた折に、大学院の学生だった君は、入院中の病院から抜け出して駆けつけてくれた。どんなに心強かつたか。君の誠実な人柄を知る最初の機会であつた。

爾来、学問上の盟友として、三十年の長い間、私が広島で、研究上の、事を起そうとする時には、いつも君が傍にいて心強い協力者となつてくれた。

昭和四十二年から始まつた「三金会」は、その最初の一つである。毎月第三金曜日の夜、有志が集まつて未読の古写本を主対象として輪読したが、行書・草書体で書かれた難読の資料を取上げる方針であつたから、難読の連続であつた。毛筆書の署名簿を取出して見ると、第一回の八月十八日には、「佐々木峻」の名が、柳田征司・山内洋一郎・井上親雄・来田隆の諸氏、計七名の自署と並んで、几帳面にやや細ぶりの書体で記されている。第三回の十月二十日には、「今

故佐々木峻氏を偲んで

